


Mamiya Gallery

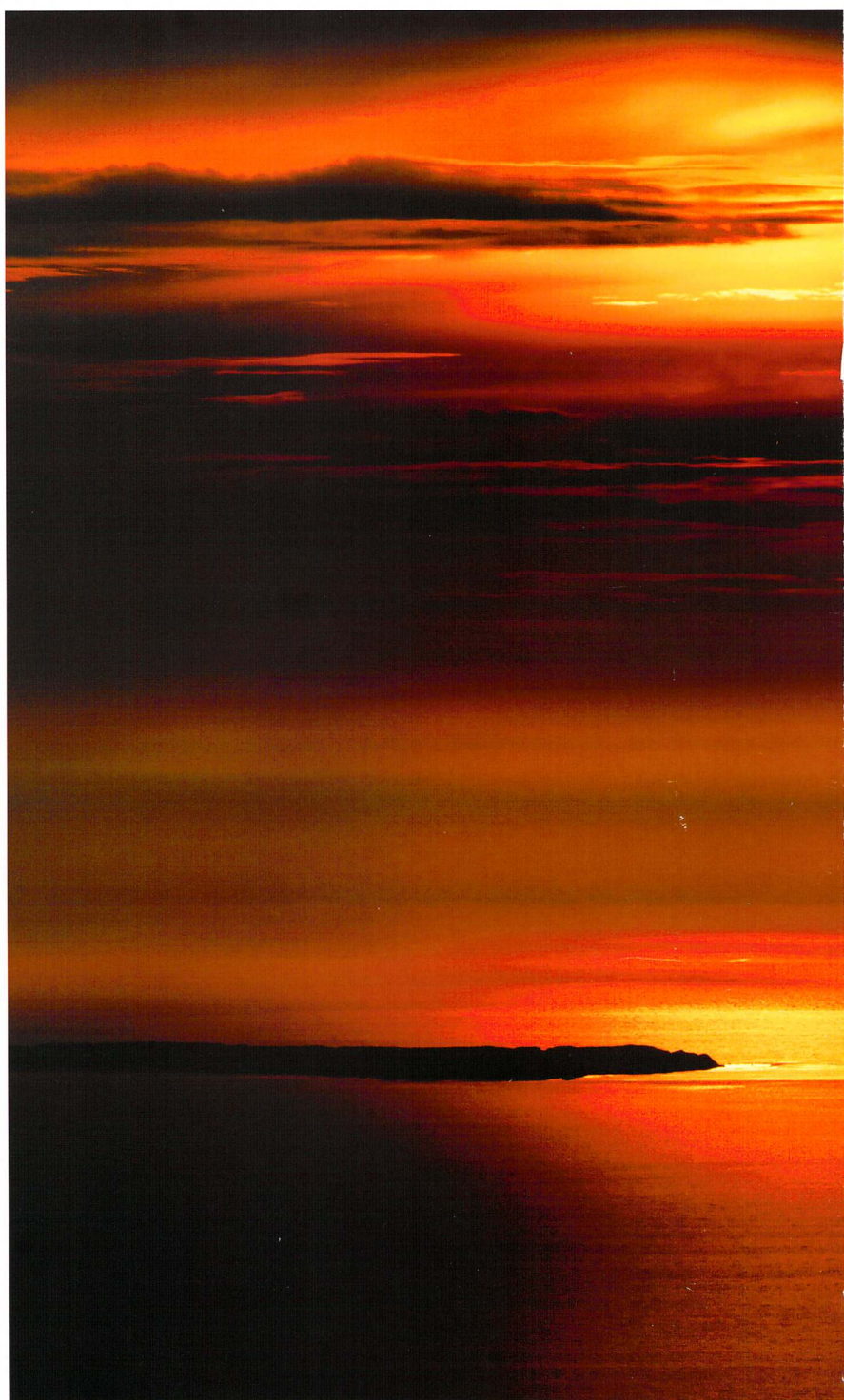
 マミヤカメラクラブ会報誌

Vol.
19
2011

Photo / 秦 達夫

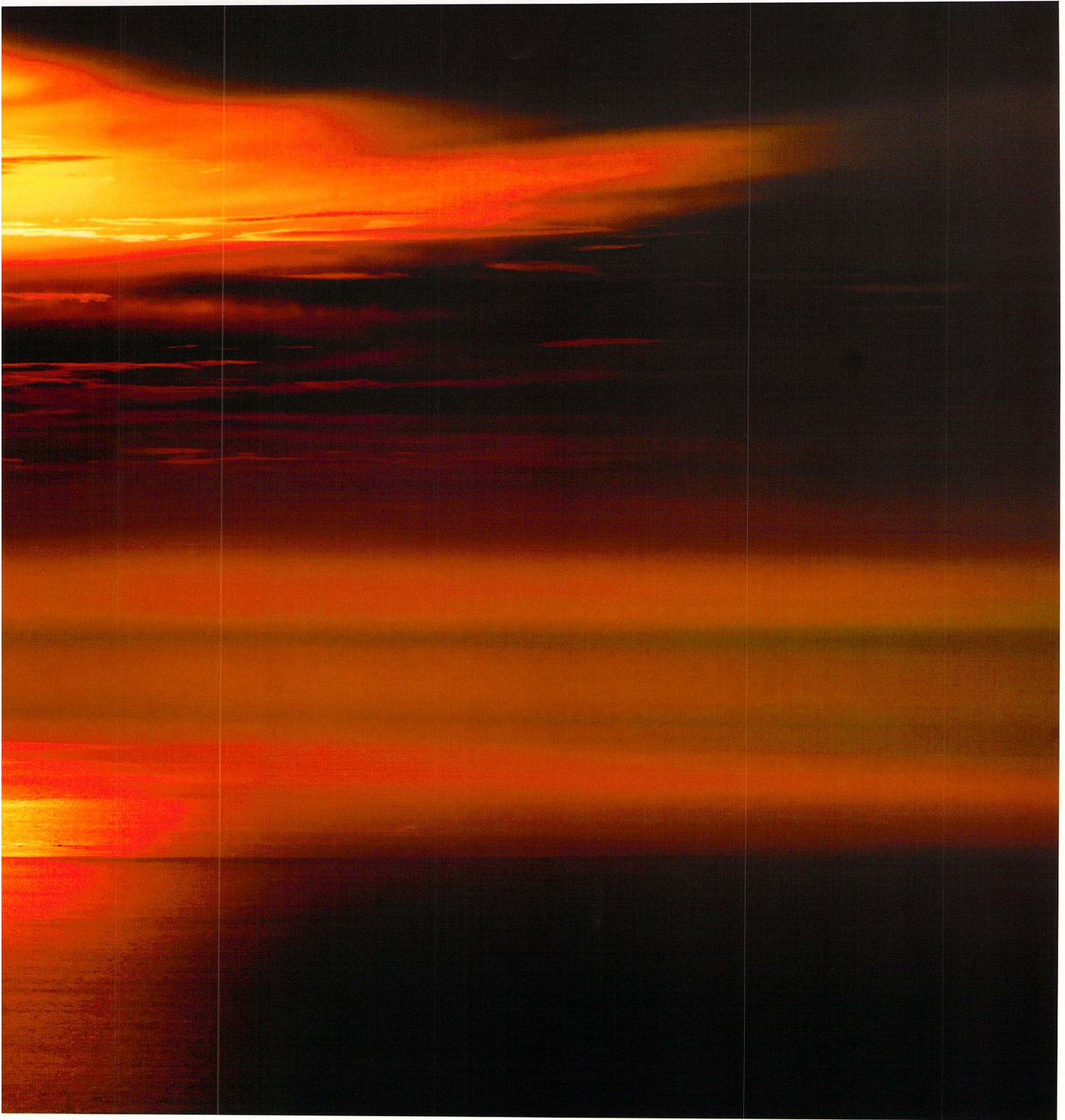
マミヤデジタルバック DMシリーズ

写真家 秦 達夫



マミヤデジタルバックDMシリーズの発売に伴い、いよいよ中判デジタルシステムの本格導入を検討するフォトグラファーが増えたのではないだろうか？その魅力は高画質と言うだけでなく豊富なレンズ群とカメラを選ばない汎用性にある。マミヤを代表するAFDシリーズを基本とし、デジタル専用設計645DFそしてRZ等、アダプターを介せば使用できるカメラはもっとも増える。往年のマミヤファンを落胆させない柔軟な姿勢に「写真とは機材優先ではなく人が創り出すもの」と言う思想がはっきりと伺える。他のメーカーも見習うべきである。DMバックのライ

ナップもフラッグシップのDM56(5600万画素)からハンドリングの軽いDM22(2200万画素)とバリエーションが豊かでそれぞれの使用目的に応じたデジタルバックを選ぶ事が出来る。選べると言うことは、それだけ迷うと言うことになるのだが安易に購入出来る代物ではないので、ここは充分検討して欲しいものである。画質に関しては後で述べることにしたいが僕が感じているDMの魅力は他にもある。それはフィルムと併用出来る事である。他のシステムではカメラをそれぞれ用意しなくてはならないのだがマミヤシステムならばデジタルバックとフィルムバックを



交換するだけで銀塩写真を楽しむことが出来る。これはとても大切な事である。仕事と言う面ではほぼデジタル化が進んでいる昨今ではあるが、銀塩で育ってきたフォトグラファーにとってフィルムが使えるか使えないかは大きな問題なのである。こんな話をすると「デジタルはフィルムの画質を越えたのか？」と話題に移って行くのだが、今の現像所の状況を含めた写真環境を総合的に考えるとDMはフィルムを越えた画質を再現している。デジタル写真が世に現れた時代は銀塩写真に比べて薄っぺらい印象を受けた方も多かったと思うがDMの創り出す上質なデータは

デジタルのイメージを覆す描写力がある。僕が何より驚いたのは写真の立体感である。手前のものは手間に奥のものは奥に3Dではない平面の中にある立体描写。写真は平面の芸術である以上ペーパーやモニターの中でしか表現出来ない。その2Dの中で如何に立体感を引き出すかがフォトグラファーの腕の見せ所なのだが今までのデジタル機器では限界があった。しかし、DMはそれをいとも簡単に再現してのけるのである。凄い時代になったものだと関心せざるを得ない。まだまだ課題もあるが本格的に中判デジタルカメラの時代がやってきた訳だ。









MCC湯の丸高原2010春撮影会

コンテスト入賞作品

撮影指導・作品選 花畑 日尚

総評

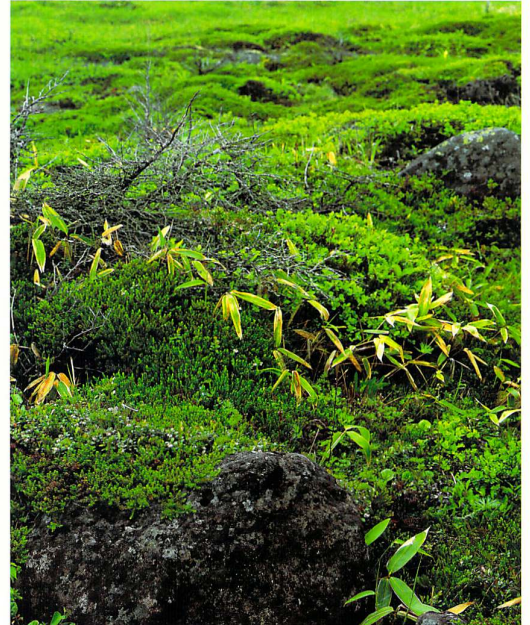
今回の撮影会は霧や急な豪雨があり天気は不安定でしたが、タイミング良く撮影ができたのではないかと思います。早朝撮影こそ朝霧で陽を見ることができませんでしたが、湯の丸高原、池の平湿原でも霧や天候の変化によって面白い写真を撮影することができました。きっと良い作品ができているはずだと期待していましたが、予想した以上にバラエティに富んだ作品が集まって一安心しました。 写真家 花畑 日尚



金賞『霧に包まれて』萩野信典（神奈川）

気象条件をうまくつかんでタイミング良く撮影されています。過酷ともいえた自然の条件をたくみに生かした作品に仕上がっています。広角レンズを使用し手前にレンゲツツジを配した構図に安定感があり、露出も良かったです。

645AFD AF35mmF3.5 F22 オート-0.3EV補正 E100VS UV



JTB賞『緑のじゅうたん』塚田達男（茨城）

木道沿いのともすると通り過ぎてしまいがちな場所を確実に作品に仕上げたところがすばらしいと思います。図柄としてはシンプルではありますが、笹の葉をうまく活かして画面に流れを表現しています。

RZプロII D Z110mmF2.8W F11 オート ベルビア50 PL



銀賞『小さな朝の宝石』松井謙吾（神奈川）

樹林帯の中で切り取った狙いどころが面白い作品です。水滴がうまくちりばめられており、良いアクセントになっています。やわらかな光の加減と露出がいいので爽やかな写真になっています。

645AFD AF APO300mmF4.5 F8 1/20秒 プロビア400X 中間リング



銅賞『芽吹き』川又正卓（東京）

山を歩きながら自然を注意深く観察し、狙ったところをシンプルに撮影したのが功を奏しています。主題をはっきりさせた安定感のある構図と露出に写真の熟練度が感じられます。

マミヤ7II N150mmF4.5L F8 1/60秒 プロビア100F



入選『遠見』早川一三夫（愛知）

湿原を主役として画面に広く取り込み、広角レンズを効果的に使いまとまりのある作品に仕上がっています。手前の苔の描写がシャープなので奥の霧との対比で立体感が出ています。一見何の変哲もないような所をよく作品に昇華しています。

マミヤ7Ⅱ N50mmF4.5L 16 1/30秒 ベルビア100



入選『霧の湿原』川崎 茂（茨城）

画面にバランス良く木を配置し、霧の雰囲気が出た瞬間をうまくとらえています。こういった状況では露出がアンダーになりがちですが、適正だと思います。もう少しカメラアングルを下げて、上部を白い部分を減らし下の緑を活かせば遠近感や奥行きがでるのではないのでしょうか。

645プロ C55-110mmF4.5N F8 オート ベルビア100



入選『霧流る』林 孝雄（東京）

霧の白い色を巧みに使い、遠近感のバランスをとっています。霧の分量も程よいので安定した構図になっています。F22まで絞っているとのことですが、ピント位置が手前すぎるため画面半ばでアウトフォーカスになってしまったのが残念です。

マミヤ7Ⅱ N150mmF4.5L F22 オート プロビア100F



入選『苔蒸』早川 弘（岐阜）

左手前から右奥に伸びる枝の流れが良いですね。正方形の画面のせいもあり、少し上下が詰まった感じを受けるので少しスペースに余裕がほしい気もします。ご応募されたプリントのコントラストが高すぎるため、もう少し抑えてプリントしたほうが良いでしょう。

C330プロS 80mmF2.8 F22 1/2秒 ベルビア100 SL



入選『生命の力』笹木祐知（埼玉）

古木に宿った小さな木に焦点をあわせた狙いはとても良かったです。惜しむらくは開放で撮影しているのでピントが浅いこと。主役の枝がアウトフォーカスになってしまったのがとても残念です。構図も良いのでその点だけ修正できれば上位入選していたでしょう。

RZプロⅡ Z100-200mmF5.2W 5.2 1/4秒 プロビア400X0

MCC中央アルプス千畳敷2010秋撮影会

コンテスト入賞作品 撮影指導・作品選 秦 達夫



金賞『天空の沼』井澤信夫（埼玉）

水面に写り込む宝剣岳、青空と雲のバランスがとても良いですね。このシーンに行ったらすぐ撮れるものではなく、粘りに粘らなくては撮影することができないと思います。撮影会の僅かな時間の中でよく撮影しましたね。

645PRO TL C45mmF2.8NF16 1/30秒 ヘルビア



銀賞『残照の岳』井川クキ子（東京）

逆光に照らされる宝剣岳に雲が漂い3000m近いアルプスならではの威厳を感じる作品です。また、高い秋の空も美しい色で捉える事ができていますね。

645AFD AF105-210mmF4.5ULD F32 1/4秒 ヘルビア50



銅賞『早暁の南ア連峰』林 孝雄（東京）

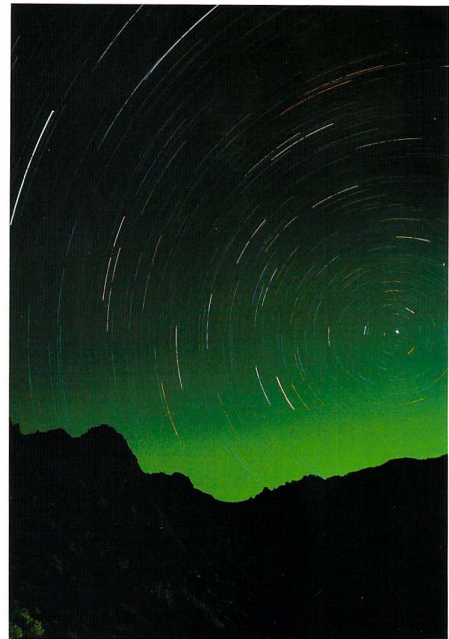
このシーンは沢山の応募がありました。どの作品も、とても素晴らしい朝焼けで甲乙つけがなかったのですが、こちらの作品が山並みと雲海と空のバランスが良かったので上位入賞となりました。

マミヤ7II N210mmF8 F22 8秒 ヘルビア100F

総 評

標高3000m近いフィールドでの撮影会とあって身体的にキツイこともあったと思いますが、みなさん頑張って撮影していましたね。特に夜の星空撮影では寒さに耐えカメラを構えている姿が印象的でした。撮影会コンテストは僅かな時間の中で個性的な作品を創ることがとても重要です。今回上位入賞している作品はどれも他にはない視点で被写体を観察し捉えていました。それから真っ赤に焼けた朝焼けの作品がもっとも多く応募されていましたが、みんながみんな同じシーンを応募してしまうと作品のレベルが高くて上位には入賞しにくいとも言えるでしょう。とはいえ、皆さんの作品レベルはかなり高いものだ実感しました。また、どこかで皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

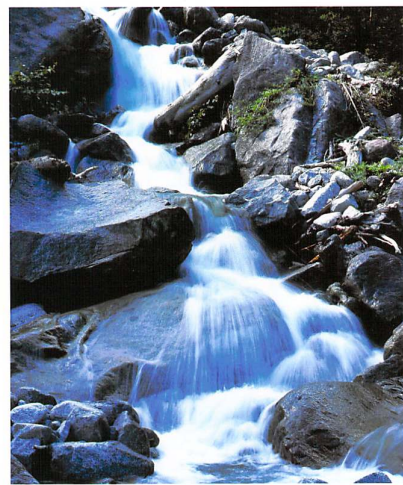
写真家 秦 達夫



銀賞『カール上空のドラマ』萩野信典（神奈川）

星の軌跡の作品は多く寄せられました。北極星と宝剣岳の岩肌が描写されている作品は他になく、月の出のタイミングを上手に使った作品です。

645AFD AF35mmF3.5 F4.8 90分 E100VS UV



銅賞『溪流』浦上景一（東京）

日暮の滝の流れを大胆にフレーミングし滝の流れの勢いを上手に引き出しています。スローシャッターにしていることで水の流れも美しく表現できていますね。

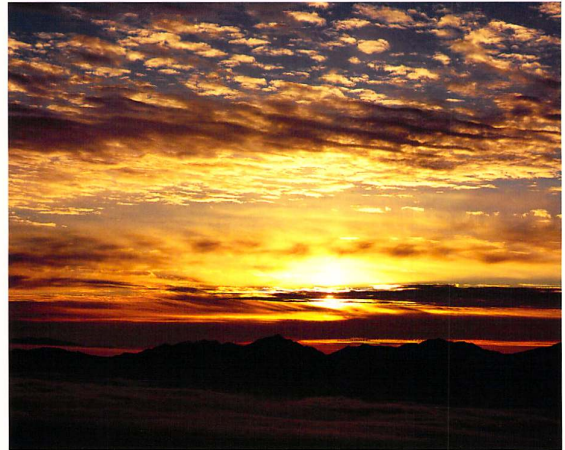
マミヤ7II N150mmF4.5L F22 オート ヘルビア100 UV



JTB賞『登山日和』石崎久夫（東京）

両手を大きく伸ばした少年が印象深い山岳スナップですね。稜線まで取り入れたフレーミングがアルプスのスケール感を引き出しています。

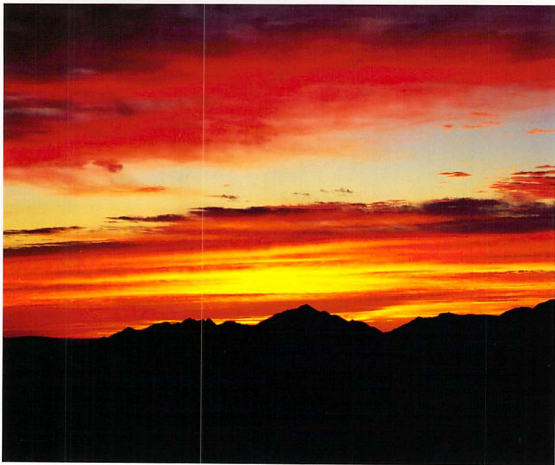
645E C80mmF1.9N ベルビア100 SL



入選『輝き』行川征子（埼玉）

撮影会当日の朝日は輝きが強すぎたのですが、雲を上手に使ってディフューズしているところがいいですね。秋を感じさせる雲間を取り入れたところもよかったです。

マミヤ7Ⅱ N150mmF4.5L F19 オート ベルビア100F



入選『暁雲』古谷栄次（東京）

日の出前の空が紅く焼ける様子を的確に捉えています。雲海を入れないフレーミングは潔く心地いい構図と言えるでしょう。

645AFD AF55-110mmF4 F16 1/6秒 ベルビア100 C-PL



入選『カールの朝』西原靖彦（栃木）

朝日が照りつける千畳敷カールは美しいですね。中判カメラの描写力を利用し遮光のライティングを生かしていますから岩の立体感が見事に描写されています。

マミヤ7Ⅱ N80mmF4L F16 オート ベルビア100 PL



入選『夜明け』古関良一（東京）

大胆なボジの濃度で個性を感じさせますね。一般的にはアンダーな作品ですが、これから日の出を迎える空のイメージを見事に表現しています

マミヤ7Ⅱ N150mmF4.5L F22 1/8秒 ベルビア100



入選『雲海の夜明け』飯塚光男（東京）

静かに漂う雲海が静寂な朝の空気感を引き出しています。太陽が雲に隠れているタイミングで撮影していれば、もう少し雲海の色が出たと思います。

RZ67プロⅡ Z100-200mmF5.2W F32 1/4秒 ベルビア50



ペンタックスファミリー／コダックフォトクラブ／マミヤカメラクラブ／ハッセルブラッドフォトクラブ合同イベント

ポートレートスタジオ撮影会 CONTEST WINNERS 審査／評：主催者

★2010年11月14日（日）大阪会場（サンスタジオ別館） 撮影指導：友田富造氏、東 隆石氏
 ★2010年11月23日（火）東京会場（野毛スタジオ） 撮影指導：中澤久和氏、伊藤洋介氏

総評

今回のスタジオは大阪が白壁と南向きの採光のある作りで、東京がハウススタジオと趣が異なります。スタジオ撮影はその限られた空間とライティングを使って写すという、かなり限定されたものです。それにもかかわらず、できあがる作品にそれぞれの個性があるのはとても興味深いことです。応募作品は個性にあふれその内容も多岐に渡っていました。入賞作品は中でも特にレベルが高かったといえます。限定された撮影条件を見抜いて、より魅力的な作品にするために何をすればよいかを理解していること、そしてモデルを明確なイメージのもと撮影している事がポイントでした。



最優秀『ほほえみ』竹川英治（釧路）

正統派のポートレートとしてとても好感のもてる作品です。気持ちのよいボケ味とシャープさは中判カメラの特徴ともいえるべくもの。また、モデルの表情やポーズも自然でシャッターチャンスによさも秀逸です。



優秀賞『LIGHT and SHADOW』

中田 究（豊橋）

陰影の強いスポットライトを活かして、無駄なものを一切排除した大胆な構図で力強く表現をしています。



優秀賞『青いワンピースの子』

白根恭一（大阪）

露出をアンダーにすることで、コスチュームと背景が適度に省略され、ポートレートとしての存在を確かなものとししました。中判カメラの魅力も見逃せません。



優秀賞『DOOL』

藍野利幸（横浜）

不思議の国のアリスといった超現実の世界を表現しようとしたのでしよう。コスチュームと赤いドアをうまく構成した作品。

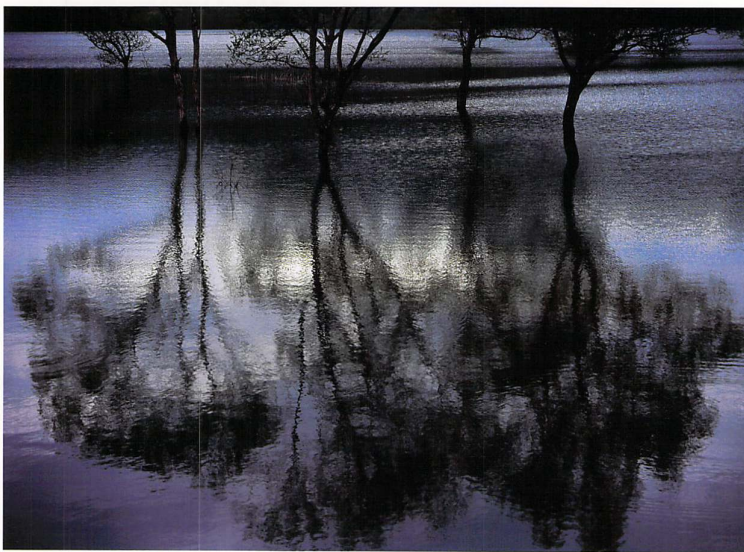
[入 選]

物思い	小山 賢治（大阪）
実と虚	森 重寿（大阪）
リゾート気分	石井 欣子（銚子）
太陽と私	瀬川 誠一（西東京）
自転車に乗って	鈴木 富久（川崎）
フェイス	佐々木昌萬（神戸）
遠くを見つめて	平尾 晋一（大阪）
みかちゃんです	阿久津徳重（松戸）
無題	目黒 正則（小金井）
窓辺	藤川 政秀（横浜）
スマイル	守屋 康弘（東京）
まなざし	久保田晃弘（南海）
みつめて	正司 多平（奈良県）
想い	西山 繁（宝塚）
Doll House	齋藤 正直（川崎）

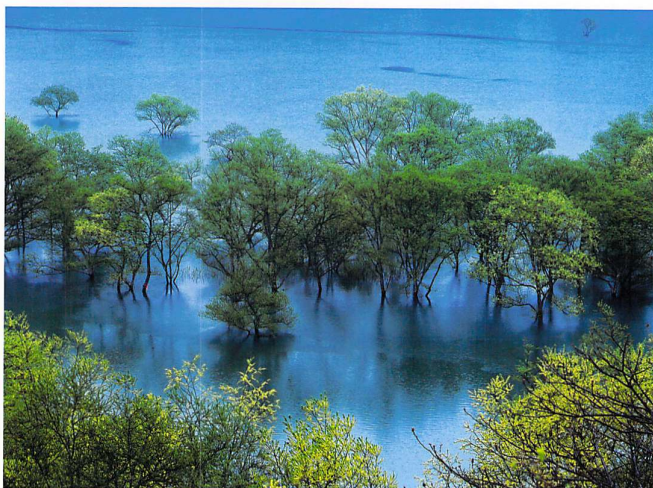
マミヤカメラ「飯豊の新緑を撮る」撮影会 コンテスト入賞作品 撮影指導・作品選 佐藤博信先生

入賞おめでとうございます。

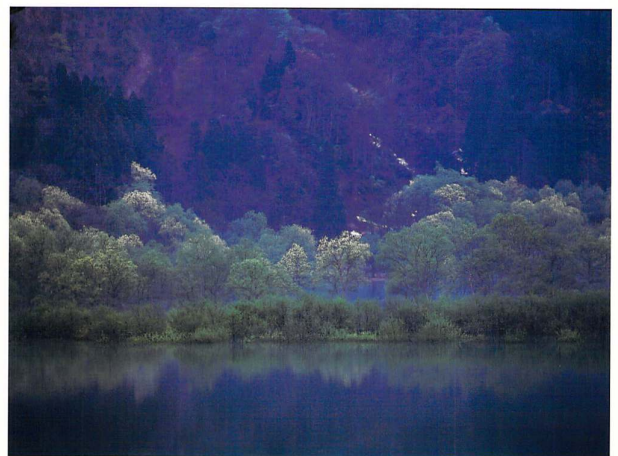
撮影会参加者数26名



グランプリ
『序曲』
高橋峰子



金賞『白川ダムに生きる』 加藤二美子



銅賞『蒼い朝』 伊藤美早子



入賞
『二色の春』
片桐史雄

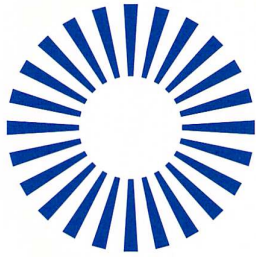


銀賞『芽吹く』 三浦りょう子



入賞
『湖上の新緑』
石丸トシエ

フォトテクニックノート



マミヤデジタルバックDMシリーズを使いこなす

マミヤデジタルバックDMシリーズはDM22, DM28, DM33, DM40, DM56と幅広いラインナップが用意されています。デジタルバック単体や645DFキット、マミヤRZのキット販売を含め色々なタイプを目的により選択できます。

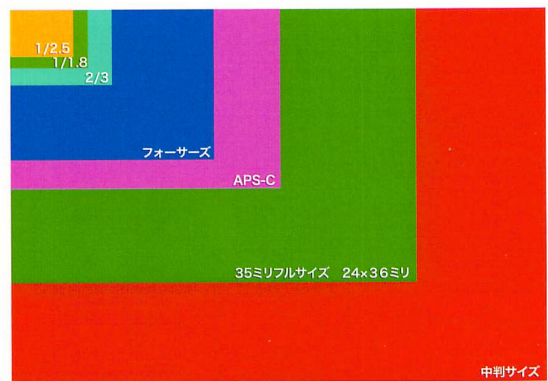
デジタルカメラでは必要とする媒体で解像度を決めます、通常印刷では350dpi、銀塩プリントは300dpi、インクジェットプリントなら200dpiが基準で、DM22は350dpiで印刷範囲が29×38センチになりこの数値に合わせるとA3の印刷物ならほぼカバー出来ます。

全紙での展示目的の写真展では最低でもやはりこのクラスの画素数が欲しいところです。

元来DMバックは商業用のスタジオカメラバックです、16ビットの広いダイナミックレンジ、大きなCCDは驚くほどの描写力を再現出来ます。ディテールの描写はもちろんですが、滑らかなグラデーションや白飛び、暗部の潰れなどは小さいサイズの映像素子とは比べ物になりません。



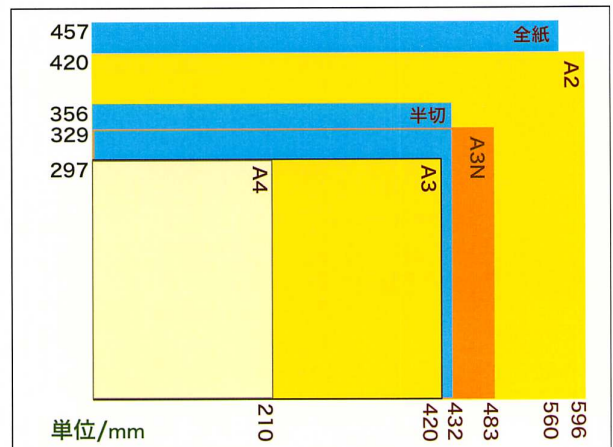
センサーの大きさは色々あります

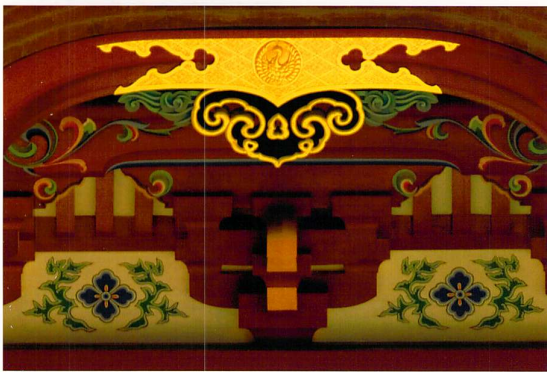


いちばん安価な

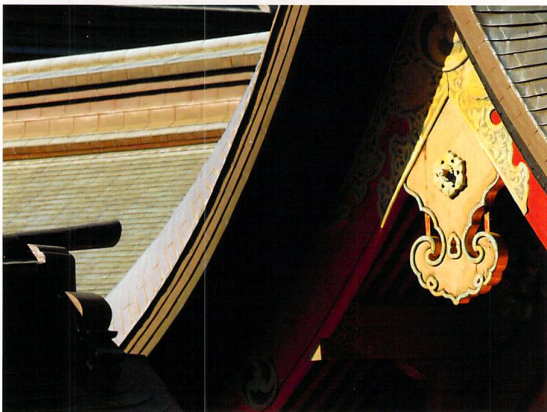
645DFとDM22の組み合わせ

高価な中判デジタルバックですがDM22ならハイアマチュアにも手の出る価格帯まで下がってきました。大量にフィルムを使っている方であればすぐに元をとれるでしょう。35ミリカメラ程ではありませんが機動性もあり三脚使用の風景など中判ならではの描写力を楽しめるでしょう。ただ画素数が増えるとカメラブレが気になるので細心の注意が必要です。丈夫な三脚やケーブルリリースの利用が前提ですが645DFはミラーアップも簡単で使いやすいので風景にはオススメです。





300mm / 撮影データー



鶴岡八幡宮

これだけ明暗比があるとさすがに屋根の白飛びはカバー出来ませんでした、もし目的が屋根の撮影にある場合は露出を切り詰めるか天候を待つ必要もあります。写真全体を見るとわかりにくいのですが部分を拡大すると金属加工、彫り物の立体感など見事に再現しています。これだけの距離をとって精密描写ができるのはレンズの性能も重要になります。望遠レンズの撮影では中判デジタルの場合、部分を切り取っても十分に使用に耐えます。



全体と部分を 原寸350dpiの解像度で印刷

RAWデータの撮影ではパソコンでの現像が必要になります。付属のキャプチャーワンでは感覚的に現像することができますが、パソコンや色に対する基本的な知識、色温度、色の補色、明度、彩度など、写真の目的を明確にして現像する必要があります。フィルム時代はカラー現像やプリントをメーカーやプロラボに任せていたのですから、それを自分でやるとなるとある程度勉強は必要になりますが、モノクロの現像焼き付けを自分で行なう様なものなので、覚えれば撮影だけではなくプリントの楽しみも大きく広がります。自分の思いのままの写真に仕上げる楽しさを実感できる事でしょう。

ただ、RAW専用カメラではオートで撮影してレタッチで仕上げると言う流れになるので、仕上げのイメージを明確にしてレタッチをする必要があります。平均的に仕上げる場合や個人的に仕上げる場合などを意識して撮影や現像をしましょう。



RAWデータでも 撮影時の露出は目的をハッキリさせます

全体のバランスを見せる露出ではある程度つぶれや白飛びは許容範囲です。シャドー部の色やディテールの表現を目的とする露出では表現が大きく変わります。RAWデータでも撮影時にしっかりとした露出や色温度での撮影が重要です。

カメラは645AFを基本に新設計された645DFが最適ですが、既に645AFをお持ちの場合にはデジタルバックを購入するだけで中判デジタルを使う事ができます。レンズはほぼ645の画角と一致しています。最新のマミヤセコールLSDシリーズのレンズシャッターを使用することで、DMシリーズはストロボ1/1,600秒まで全速同調します。ファッションのデライトシンクロなどにも幅が広がりました。デジタル対応の高性能レンズも増えています。

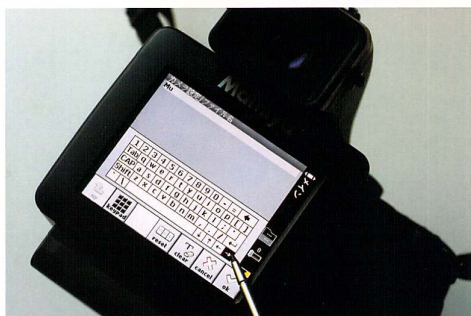
フォトテクニクノート

バック交換のメリットは

DM22を始め、5600万画素のDM56や、マミヤMバックなど目的によりデジタルバックが選択ができるのでまだ高価ではありますが用途にあわせてチョイスできるようになりました。

DMシリーズの場合カメラの基本操作はカメラ側のダイヤルで、バックの基本操作は3.5インチタッチパネルタイプで行うようになっています。スタイラスペンが付属していますが撮影部分は指でも操作できます。タッチタイプの携帯電話の操作の様なものですぐになれる事ができます。

ローパスフィルターが無いのでとても画像はシャープです。擬色も風景写真ではほとんど見られずまず問題ないでしょう。デジタルバックを外せるのでセンサーの清掃もやりやすくなりますが高価な部分なので細心の注意も必要です。



歌川広重『富士三十六景』七里が浜

何百年も前から浮世絵や写真で描かれた湘南七里が浜からの富士山を撮影してみました。定番の場所だと撮影位置が決まっています。絵はがきのように嫌われる向きもあります。新鮮味に欠けるのは仕方のないことですが、良い場所だから皆が撮りたがりです。新しいカメラやレンズを使用したり何にポイントを持ってくるかなどで変化をつけましょう。富士山の場合雪の占める割合は重要で多すぎても無くてもマイナスだと考えます。空の状況も雲の状態を表現するか、雲ひとつない条件かでも変化があります。時間帯も午前中、純光の青空や、夕景のシルエットでも絵になります。波の表情もおだやかな波や荒い波などで変化をもたらしてくれます。近くに住んでいれば何度でも行きたいポイントです。同じ場所でも何度か撮る事で自分のベスト1が見つかります。一度撮ったら終わりではなく何度も撮らせてくれる場所は貴重です。撮影位置はほぼきまっている場所なので季節の変化も大切にしてください。富士山の雪のバランスは11月頃が私は好みです。サーファーと同じで台風後などの荒れた波を待つ事も良いでしょう。

35ミリカメラ程ではないにしても645DFは十分な機動力もっています。風景写真に人物を入れるのを嫌う人もいますが時間がたつと当時のファッションや流行もみえて貴重な記録になります。和装の旅人がウエットスーツのサーファーになり、またサーフボードなどのデザインでも時代が分かります。あくまでも風景写真として捉えているのでピントは富士山にサーファーは前ボケと考えて処理しています。

富士山など目立つものをポイントにすると少しの変化では変わり映えがありません。思い切って富士山を無くす事でサーファーが主役になります。全部を写そうとせず部分を切り取る事でも写真は作れます。シャドーからハイライトまでゾーンシステムのように幅広い表現も大きなCCDと解像度によるところが大きく貢献してくれます。

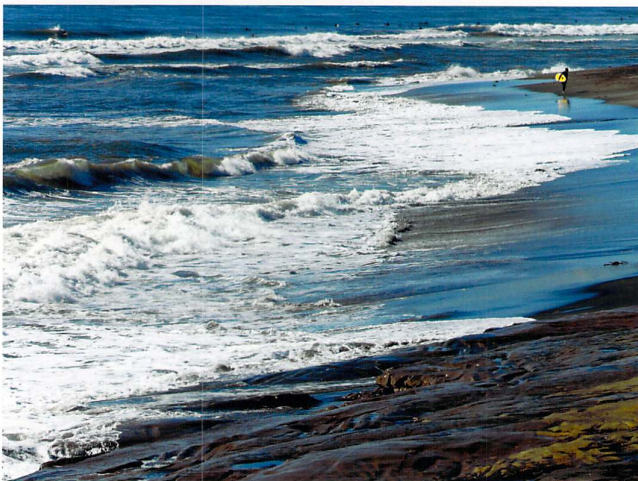
縦位置80mmf2,8

風景を望遠で切り取るだけでなく望遠の引きつけ効果も狙います。標準レンズでは遠くの被写体は離れて見えますかわりに前景をポイントにして画面作りをします。

感度はISO25でほとんどノイズも無く最高ですが、内容によってはISO50位までは実用範囲です。



DM22 / 300mmf4,5



山を撮るなら風を見よ —雲は空の気を呼ぶサイン—



「ダウラギリ翔雲」 ネパール ナウリコットより

マミヤ645AFD、80mm、F2.8、PLフィルター使用、AF、AEブラケット、絞り13、25分の1+1、フジクローム+1増感

山の写真を撮っているとそこにかかる雲が山の存在感を強く引き出していることに誰も気付くでしょう。(全然雲がないと淋しいという人もいるし、ありすぎて困るという人もいますが) 山は風、つまり大気の動きにとって邪魔な存在なのでいろいろな形の雲を出してくれるものです。富士山の吊し雲、笠雲などはその典型、もはやそれ自体、ひとつの大きな狙いどころになっていますね。

好天の安定した天気の時でも山では日変化といって周期的に雲が出る時、出るところが大体決っていて、これを牛耳るのを山風、谷風といい、朝のうちは山から谷へ風が吹きおろし、昼になると地面が暖まって上昇気流が発生し山に雲がかかる。という規則的な現象を夏山などでよく経験します。つまり「雲が出てきたから天気が悪化した」のではなく天候が安定しているときにこのようなことが一日サイクルでくり返しおこるわけ。タイトルの「山を撮るなら風を見よ」とはこうしたタイミングをうまくつかみなさいということ。

ところで作例ですがこれはすごく大スケールな風の動きです。山はヒマラヤのダウラギリ (8167m)、画面の左からくる風はネパール—インド平原からの風、右からの風はチベット高地からの風。この二つの風がダウラギリの上空で「正面衝突」の押し合いをして高く舞い上ったのがこの雲です! (謎がとければ1秒でわかるすご

さですが)

この画面背後にはアンナプルナ (8091m) の高峯があり、カメラポジションは二つの高峯の谷間、カリガンダキ峡谷の底 (約2600m)。つまり両方の山の間を吹きぬけてこの風になったということ。変化の早い雲だったのでチャンス狙いで手持ちで撮りました。

それにしてもこんなみごとな雲も、地形と風向で大体予測できます。筆者は経験的にそれを知っていたので、この近辺からダウラギリ連峯、アンナプルナ連峯のすばらしい雲ゆきの作品を中判細密描写でたくさんものにしていきます。

このカリガンダキ峡谷は大ヒマラヤを横断する巨大な谷で宇宙ステーションからもハッキリみえるほど、だからその風もまた非常に強いのです。つまり雲もすごいのが出る。

あのアネハヅルという鶴が群をなしてインド←→チベットへわたるのもこの谷で、しばしば強風のため追い返えされることがあるのはご存知の方も多いでしょう。

でもみごとな雲ばかり感心してはいけません。その風のためこの谷の間をぬける航空機が飛べないことがあるのです。筆者たちも何と二日も運休されて困りました。



秋の中央アルプス千畳敷撮影会 後記

講師 秦 達夫先生
2010年10月1日(金)～2日(土)

秋の撮影会は中央アルプスの千畳敷で行われました。東京からはバスで移動、菅の台から路線バスに乗り換えて、車道のすぐそばにサルスの群れが居るようなのんびりした山道を上っていきます。ロープウェイの駅であるしらび平から撮影を開始しました。木漏れ日が差す林道を歩いて日暮れの滝まで向かいます。撮影をしていると頭上で何か物音が。ふと顔をあげるとちょうど真上をロープウェイが通っていきます。一通り撮影を終えると戻ってロープウェイで千畳敷へ。到着した千畳敷駅は宿泊するホテル千畳敷とつながっていて、すごく気軽に標高2600mまでいくことが出来ました。ホテルを出てすぐ目の前の千畳敷カールは雄大で、皆さん早速撮影を始めました。夕食の後は星空撮影を行うことに。日が沈んで気温も下がり、東京では見られない数えきれないほどの星空が広がっていました。それぞれレンズを空へ向けて長時間露光している間に、流れ星が流れたり、少し雲が出てしまったり。月が出るまでのわずかな時間でしたが、寒さも気にならないぐらい楽しい撮影でした。明るく日は日の出を撮影するために東の空を狙います。雲海も少し出ている、その向こう



には富士山を見ることが出来ました。朝食後荷物をまとめた後は千畳敷カールを散策。標高2600mとは思えないほど暖かく、宝剣岳を眺めているとすぐ近くでウズラに会ったり充実した撮影が出来ました。帰り道に光前寺に寄り道してスナップ撮影。とても気候に恵まれた二日間でした。

マミヤカメラクラブ事務局移転のご案内

先にもご案内いたしましたとおりマミヤカメラクラブ事務局は、運営母体であるマミヤ・デジタル・イメージング株式会社の組織変更に伴い、平成23年6月16日より事務所を大判、中判カメラの専門店である株式会社ワイズクリエイイトに移管いたしました。今後は株式会社ワイズクリエイイトの協力を得て、より一層のサービスの向上と充実を図り、皆様のご期待に沿うよう努める所存でございます。尚、マミヤカメラサービスセンターは今までどおり水道橋のマミヤ本社でございますので倍旧のご用命ならびにご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

マミヤカメラクラブ事務局

■ 新住所

〒113-0033
東京都文京区本郷3丁目39-14
ワイズビル (株)ワイズクリエイイト内
TEL03-5689-2776 FAX03-5689-2786

E-mail: info@mamiya-club.com

■ 6月15日(水)よりHPを新たに開設いたします。

新HP: <http://www.mamiya-club.com>

■ 新事務局営業開始日: 平成23年6月16日(木)

■ 交通の案内

地下鉄丸ノ内線「本郷三丁目駅」徒歩5分、
JR「お茶の水駅」徒歩8分



MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT

マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ・・・、
学ぶ・・・、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。

写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。

マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。

講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。

撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。

宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られます。会員の方には、修理割引・オリジナルグッズ特別斡旋などの特典があります。

入会金：1,000円(消費税込み)

会費：3,000円(消費税込み) ご入会月より1年間。

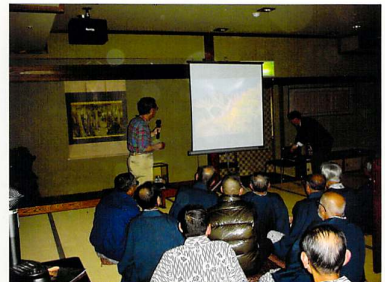
*但し2年分の年会費をご入会時にお納めください。

手続：入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

電話、ファックス、メール等で申込書を事務局までご請求ください。

クラブ員特典

- マミヤカメラクラブ会報 (Mamiya Gallery)の発行。
- マミヤカメラクラブ撮影会の開催。
- 勉強会・セミナーの開催
- HP上に会員作品ギャラリーの開設。
- マミヤ製品修理・点検料金の割引。
- 会員証、オリジナル会員バッジ提供。
- オリジナル会員名刺制作 (有料)。



入会のお申し込み・お問合せは

マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷3-39-14 ワイズビル (株)ワイズクリエイト内

TEL 03-5689-2776 FAX 03-5689-2786

E-mail : info@mamiya-club.com



マミヤカメラサービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。

また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファックスでも承ります。

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目2-2 ココタイラビル1F

TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991

東京サービスセンター TEL 03-6748-1983 営業時間 9:00~17:50

土、日、祝日は休業

マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷3-39-14 ワイズビル (株)ワイズクリエイト内

TEL 03-5689-2776 FAX 03-5689-2786

E-mail : info@mamiya-club.com

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

商品・修理に関するお問い合わせは、下記へご相談下さい。

東京サービスセンター

1F TEL 03-6748-1983 営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区 株式会社タックカメラサービスセンター：〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目
TEL 011-221-8507 FAX 011-232-3344
東北地区 M C フ ロ テ ッ ク : 〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44 森ビル202
TEL 022-297-3846 FAX 022-266-1808
東海地区 山田テクニカルサービス : 〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門399
TEL 0567-32-2708 FAX 0567-32-3454

*マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしていません。

《マミヤカメラクラブホームページ》 <http://www.mamiya-club.com/>

この会報誌は最高級美術印刷技術 HBP-700 を使用しています。